

JICAボランティア事業の方向性に係る懇談会

第4回

JICAボランティア事業にかかる
実施上の課題と今後の方向性

2016年1月28日

JICA青年海外協力隊事務局

論点No	内容
1	JICAボランティア事業の目的
2	ボランティア人材の獲得
3	ボランティア人材の課題解決能力強化
4	在外の実施体制/VC業務

【論点1】JICAボランティア事業を取り巻く環境（開発協力大綱を含む）の変化を踏まえ、事業の3つの目的を以下のとおり再整理したい。

現行	提案
開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与	維持
友好親善・相互理解の深化	相互理解の深化と 共通価値の探求
国際的視野の涵養と ボランティア経験の社会還元	ボランティア経験を活かした 社会貢献

JICAボランティア事業の目的 イメージ図

① 開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与

② 相互理解の深化と共通価値の探求



③ ボランティア経験を活かした社会貢献
(異文化社会での経験等を通じて日本社会と世界に有用な人材が育成される)

<募集・人材確保>

- 年2回の長期V募集期ごと募集広報、募集説明会・ボランティアセミナー
 - ・事務局課題別体制への移行による課題別募集戦略強化（2016年度～）
- 現職参加
 - ・人件費補填、派遣期間選択制度（1年9か月派遣）
 - ・現職教員特別参加制度（20～39歳）
 - ・民間連携、自治体連携
- シニア層の活用
 - ・シニア海外ボランティア登録制度
- 応募資格
 - ・日本国籍保有者に限定

<選考方法>

- 一次選考（書類選考、語学）＋二次選考（技術/人物面接、各15分程度）

<参加方法の多様化>

- 短期派遣（年4回）
 - ・大学連携

JICAボランティアに求められるもの...

- 持続する情熱：協力活動の途中で種々の困難に遭ったとしても、最後までやりぬく情熱を持続させること
- 健康管理：日本とは異なる自然・生活環境の下でも健康を維持する自己管理能力を持つこと
- 異文化理解：異文化社会における人間集団の中で行動様式を観察し、理解し、尊重すること
- 柔軟な思考：その中であって様々な手法を考えることのできる思考の柔軟性
- 表現力・説得力：事実を説明し自己の考え方を理解させうる表現力・説得力
(「JICAボランティア・ハンドブック」より)

<参考>

ボランティア五箇条：(現事務局長訓練講話資料から)

ボランティア精神：自発性、人間愛

自己管理：活動、生活、健康、安全

適正技術：知識・技術/技能、継続性

応用力：柔軟思考

表現力(伝達力)：言葉＋礼節＋喜怒哀楽

(1) 派遣前訓練

- ・ 目的：①活動に必要な語学力の習得
②ボランティアとしての能力・適性の向上
- ・ 訓練日程：JV 70日間、SV 35日間（合同合宿制）



(2) 派遣前の技術補完研修

- 要請に的確に応えるために必要となる実践的な技術や教授法等が一部不足していると判断された対象者のための研修。
- 派遣前訓練前に、内容に応じて1日間～3か月間まで実施。
- 全長期ボランティアの30～40%程度が受講。



(3) 派遣中ボランティアへの活動支援

- 現地訓練・研修（語学、安全対策等）、現地語学フォローアップ研修
- 技術顧問等による活動支援、技術情報支援（研究所図書館）、現地活動費の支給、JICA-Net(マルチメディア教材、TV会議システム活用) など

<在外の実施体制>

- 長期派遣中VC 159名/75か国（2016年1月現在）。
- 他のJICA事業と緩やかに連携する案件もある。
- V事業に特有の制約の存在（JOCV・日系青年に対する移動・家族同伴等の制限等）。

⇒在外拠点による関与の強化・標準化。

<VC業務>

- VCの主要業務：派遣計画策定、要望調査、受入準備、活動支援、安全対策/福利厚生、関係機関との調整等